

水仙を剪れば水音ついてきし

小関菜都子

小関菜都子さんが今年も「角川俳句賞」の本選に残られ、「俳句」11月号に作品「三つ編み」50句が掲載された。2年連続の快挙である。

小関菜都子さんは子育て真っ最中のママさんなので、本部吟行などにはあまり出かけられないから、「会ったことない」「どんな人？」っていう方も多いかもかもしれません。関西では関西吟行②の幹事を務めて下さっていて、進行役などもさくっと引き受けて下さっています。ジーンズや無印良品のストライプTシャツなどがよく似合う印象で、ボーイッシュなさっぱりした方です。

角川賞で、◎をつけた小澤實さんは、「安定感」「季節感に対する繊細な把握」を誉めておられた。岸本尚毅さんも「春夏秋冬がグラデーションになっていて、かなり正確な制球力をもって言葉を使っている」と評された。正木ゆう子さんは「基本季語」を多用し、「あまり細やかに季語を選んでないような印象」「繊細に受け取った季節感を理屈に置き換えて詠んでいる句が多い」と評された。確かにやや時候の季語が多いかもしれない。

ただ、全体に「季節感に対する繊細な把握」について触れておられたところは、大いに励まされるどころだ。毎年50句を一定レベルで揃えることはなかなか大変なことだが、これからも持ち前の明るさと繊細さを武器に、まっすぐにチャレンジを続けてほしい。

春浅し指させばもう消ゆる鳥
晩春のスープに沈む豆あまた
初夏の座れば斜めなる野かな
そのかみの寺域は広しかたつむり
燦々と飛蝗散らして帰りゆく